

第4回資源評価結果説明会

【議事要旨】

○日時：令和5年1月20日（金）13:00～16:20

○場所：WEB 会議

○魚種：マダイ瀬戸内海東部系群、イカナゴ瀬戸内海東部系群

○概要：

マダイ瀬戸内海東部系群、イカナゴ瀬戸内海東部系群の資源評価結果について、当該水産資源の関係者を主な対象としつつ、公開でウェブ形式の説明会を開催した。

本説明会では、国立研究開発法人水産研究・教育機構から水産資源ごとの資源評価結果の説明が行われ、これに対して参加者から質問・意見等があり、活発な議論が行われた。

主な意見等は以下のとおり。

1. マダイ瀬戸内海東部系群

- ① 瀬戸内海の海洋環境や餌料環境により環境収容力は変化すると思われるため、資源評価や資源管理の議論に生かせるように、科学的な検討を引き続きお願いしたい。
- ② 瀬戸内海中西部系群と瀬戸内海東部系群とで資源状況に違いが生じている要因について説明してほしい。
- ③ 将来的に得られる漁獲量が同数であっても漁獲圧の大きさにより漁獲物の年齢組成が異なることについて、いくつかの事例（ F_{msy} と $F_{current}$ の場合の比較等）を取り上げ、図等を用いて説明してほしい。
- ④ 漁獲金額の最大化を目標とした場合の試算を可能な範囲で今後検討してほしい。
- ⑤ 遊漁が資源に与える影響について、今後検討してほしい。
- ⑥ 漁業者に対する現地での説明会を可能な範囲で実施してほしい。

2. イカナゴ瀬戸内海東部系群

- ① 2系ルールでかつ3通りの漁獲管理規則が提案されていることから、理解しやすいよう丁寧に説明してほしい。
- ② 3通りの漁獲管理規則の違いを理解するため、資源量指標値及び漁獲量に一定の仮定を置いた上で、今後5年間程度の算定漁獲量の試算値の推移を表等で示してほしい。
- ③ 調査船調査のCPU Eデータを資源評価に活用できるよう引き続き検討してほしい。

以上について、今後の課題として検討されることとなった。以上